

～七飯町海外交流研修に参加して～

七飯高校教諭 佐々木 孝道

昨年度、七飯町の協力のもとコンコードカーライル高校と七飯高等学校との間で姉妹校提携調印式が開催され、正式に両校の姉妹校提携が結ばれることになりました。

以前より、七飯高校吹奏楽局とコンコードカーライル高校スクールバンドを中心とし合同演奏会の開催、七飯高校への授業参観など生徒間の交流を行ってきました。しかしこちらからコンコードカーライル高校へ出向くという機会は、七飯町の中高生海外派遣事業の他になく、今回初めて本校吹奏楽局を中心とした訪問団が実現しました。私は七飯高校引率団および中高生海外派遣引率教員としてこの事業に参加させていただきましたが、このような研修の機会を与えて頂いたことにとっても感謝しております。

私自身も今までアメリカには一度も行ったことがなく、生徒引率の立場で果たして大丈夫なのかという不安を抱えながら出発しました。約14時間の飛行の後に、ボストンに到着し、最初に、昨年度調印式で来日した方々が迎えに来ており、いよいよ到着したという実感が湧きました。

幸いにして、私のホームステイ先は昨年来調印式でお世話になっている七飯町役場の寺谷さんと一緒ということで、少し気持ちが楽でしたが、まったく会ったことのない人のところでお世話になるということには正直不安がありました。しかし、コンコードカーライル高校で生徒が各ホストファミリーと対面している間に、ナンシーさん、そして旦那さんのジャックさんがにこやかに声をかけてくれてすごく安心したことを憶えています。こちらのご夫妻には滞在中はずっと家族の一員のように接して頂きました。



到着してすぐの対面式

翌日はまず、ジャックさんに近所の散策とコンコードカーライル高校のキャンパスを案内していただきました。到着した日は夜遅くであったため、暗くて学校の様子がよくわかりませんでした。初めて見るキャンパスは日本の公立高校とは違い、敷地はかなり広く、まるで日本の短期大学といったような印象を受けました。特にプールは学校の敷地内にありながら、町の方が利用しており、立派な町営プールという感じでした。午後にはオーチャードハウスの見学をさせていただきましたが、そこでは4名の日本人（お話する機会はありませんでしたが、生徒の保護者と思われる方々）がおり、通訳を兼ねて私たちの案内をしてくださいました。学校関係者だけでこれだけの日本語と英語のバイリンガルの方がいることを知り、様々なところで日本人が活躍しているということを実感しました。

3日目には本校吹奏楽局と CCHS バンドとのコミュニティーコンサートが開催されました。昨年、七飯町文化センターで両校による合同コンサートを開催して成功を収めたところですが、今度は姉妹都市であるコンコード町で合同コンサートを開くという異例のこと

が実現されました。まず、七飯高校の生徒による和太鼓演奏から始まり、CCHS, 七飯高校、合同演奏という順番で演奏が行われ、最後にはスタンディングオベーションという形で幕が下ろされました。一緒に練習する機会はほとんど皆無でありながら、国を超えて立派に成功させました。これは日頃の両校生徒の練習の成果であり、また本校顧問の小野寺教諭とデンティーノの先生の長年の信頼関係によるものであると確信できました。



七飯高校の演奏



会場の様子

その日の夜には CCHS のカフェテリアでパーティーが開催され、本校英語部による日本舞踊を披露しました。CCHS の歓迎の催し物はポップ調のダンスでしたが、大いに盛り上がり、そのうちに日本の中高生もそのノリに引き込まれ、一緒に輪になり踊りだして

いました。私はその中にはとても恥ずかしく入っていくことはできませんが、アメリカの方々には先生、大人も関係なく一緒に楽しんでおり、文化の違いを感じました。

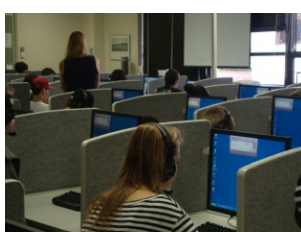
5日目にはコンコードカーライル高校の校舎内を案内して頂きました。まず最初に地元にも電波を発している放送局を案内して頂き、実際にその放送局から七飯町にメッセージを発信させていただきました。中高生の保護者の方もこの放送を聞いて少し安心されたのではないのでしょうか。次に私は、スペイン語の授業を参観させていただきました。授業は20名程度で行われており、前半は教室でネイティブの教員と訓練を中心とした授業を行い、後半は日本でいうコール教室に移動しパソコンを利用した授業を行っておりました。



歓迎会でのダンス



積極的に発言する様子



外国語の授業

図書館もそうでしたが、まさに大学並みの設備で、この恵まれた教育環境がうらやましく思いました。また、英語の特別クラスでは私たち日本人学生も一緒に参加し、アメリカ人、日本人をミックスしたグループに分かれお互いの国のことについて話し合う機会が設けられました。グループごとに

テーマを設定し日本とアメリカの共通点、相違点を見つけ出し発表するという段取りです。紙とマジックを使いながら、お互いにコミュニケーションをとっていましたがこれは難しいだろうと心配になりました。しかし、さすが生徒たちは若い、こちらの心配はよそに楽しそうにコミュ



英語の特別クラスでの様子

ニケーションを取り合い発表していました。引き続きグループでお互いの学校生活のことについて話し合う場面になりました。ここでは言葉の問題もあったと思いますが、アメリカ人学生は積極的に質問してきますが、日本人学生はなぜかあまり質問できず、私が一生懸命質問しているという状況になってしまいました。それでも生徒は楽しそうにコミュニケーションをとっており、貴重な経験ができたことと思います。



コンコードカーライル高校図書館

6日目、7日目にかけてはボストン美術館の見学、バークリー音楽大学の見学をしました。

ボストン美術館には昼食を含めて3時間近く滞在しましたが、それでも全部の見学はできませんでしたが、じっくり鑑賞したい人はおそらく1日では足りないくらいの大きさでした。また、バークリー音楽大学では、日本人サクソ演奏者の寺久保エレナさんの演奏を聴くことができ、さらには彼女の話聞ける機会に巡り合いました。とてもラッキーな時間だったようです。実

は彼女が有名だというのは知りませんでした。名前を聞いて以前テレビで特集されていたことを思い出しました。思い出した瞬間からなぜか写真を撮っていた自分が恥ずかしいのですが。

その翌日には七飯高校訪問団は一足先に帰国し、私たち七飯町中高生派遣団は七飯町役場の宮田課長さんを団長として、14名でニューヨークへと向かいました。今までは役場の方々や同僚などと一緒であったために安心していたところがありましたが、人数が少なくなりプレッシャーを感じました。それでも、宮田課長さん、ベン、町代表の方々がいるので何とかなるだろうと開き直りニューヨークへ向かいました。

ニューヨークに到着するとまず始めに中華料理店で料理を食べましたが、今までのアメリカ食ばかり食べていたのでとても懐かしい味に感じました。

その後、エンパイアーステートビルに3時間近くかけてやっと上ることができました。エクス線検査があるということを知らなかったのがびっくりしたのと、検査されたときに英語でボールが入っているとわれNoと必死に言いましたが、どうしてボールをかばんに入れていたらまずいのかと疑問に思っていたら、どうやら、ペットボトルのボトルが私にはボールと聞こえ、恥ずかしい思いをしました。翌日行った自由の女神でもエクス線検査が2か所に渡って行われました。さすがアメリカのシンボルであることを再認識しました。ニューヨークの最後の夕食ではたまたまその場にあったピアノで現地のガイドさんがピアノ演奏し、それにわせてベンがレットイットビーを歌い始め、思い出に残る一場面を演出してくれました。二日間のニューヨーク研修も無事に終え、12日間に渡るコンコードへの旅が幕を閉じました。



ニューヨークにあるユニクロ

こうして研修を終えるとこのホームステイの意義が十分に理解できました。ホームステイだからこそ理解できる日本とアメリカの文化の違い、国境を越えた人とのつながりを肌で感じることができました。私にはこのようなチャンスは二度とないことだと思います。ましてやこの研修に参加できた中高生は困ったこともたくさんあったことと思いますが、他では経験できない貴重な体験ができたことと思います。今、この年代でこのような経験ができたことにより、いろいろな意味でこれからの進路や、世界観にも大きな影響をおよぼしたことに間違いありません。どうかこのような機会を頂いたいろいろな人々への感謝の気持ちを忘れずに今後に活かしてほしいと思います。

もちろん自分自身にも多くの人への感謝を忘れないようにしていきたいと思っております。ありがとうございました。



七飯町海外交流派遣団